

点・線・面

京都教育大学教授

森山卓郎
もりやま たくろう

このたびの震災で被害に遭われたみなさまやご家族、ご関係の方々に對し、心よりお見舞いと哀悼の意を表します。私が園長を兼務している大学の附属幼稚園でも、三歳の子どもたちもふくめ、大人も子どもも、みんなで黙祷をささげました。みんな一生懸命、じつと頭を下げた犠牲になった方々を想い、おいのりをしました。

震災から数日経って、いくつかの避難所とバイクによる交通がなんとかできるよになったところ、支援物資を送るNPOのステーションにボランティアで行っていた私の息子が、善意の暖かさを涙ながらに語ってくれました。たくさんさんの小袋を手縫いで縫って、文房具一式とメッセージを一つ一つ入れ、それを大きな箱に詰めて持ってきてくれたおばあちゃん。

今、下着がない、というメールが入ったと聞いて、「この辺で、下着売っているのはどこかなあ、あ、あそこやー」とサイズごとに下着類を何往復もして買ってきてくれたおばあちゃん。

山になった段ボールの一つ一つに書かれたメッセージの熱い思い。

支援のステージや内容はいろいろと変わっていくでしょう。いろいろな関わり方もあるでしょう。しかし、老若男女、いろいろな国や地域の人々の、熱い気持ち、深い思いは変わりません。

こんなとき、「点・線・面」という言葉を思い出します。一人一人、大きな点も小さな点もあるでしょうが、点が集まって結び合って、線ができ、さらに線と線が結ばれ、重なり合って、面ができます。数学では一つ一つの点は大きさをもちないと教わりましたが、

それでも、集まってくると無限の広がりをもつ「面」になるのです。

点と線の組み合わせは、文字も創ります。小さな点と点が集まって線になり、線や点が集まって、いろいろな形を作り、文字を創り言葉も表します。

点の一つ一つは私たちの一人一人の力であり思いです。そうしてできた文字で、みんな「復興」という言葉を、形あるものとして創っていくのだと思います。目立たないかもしれませんが、一つ一つの点が大切です。

時間はかかるのかもしれませんが、しかし、一つ一つの点は「復興」という言葉を形あるものにします。そして、それが重なり合っていけば、それはやがて無限の一つの「面」になっていきます。未来という名の「面」に。